

イデックスオイルレポート ~For a month~

(株)新出光

【月次概況】

- 第1週、1/3のWTI原油は、先週比3.36ドル高の73.96ドルとなった。2日発表した12月の中国製造業購買担当者景況指数(PMI)は、50.5と前月の51.5から低下し、市場予想の51.7も下回った。同国経済の低迷が懸念される中、投資家は中国が打ち出す新たな景気刺激策に注目。今年3月の全国人民代表大会(全人代)で、国内総生産(GDP)の2%規模の追加景気刺激策が打ち出されると予想する向きもあり、市場ではエネルギー消費大国である中国の景気が回復すれば石油需要が増大するとの見方が広がり、買いが入りやすい地合いとなった。
- 第2週、1/10のWTI原油は、先週比2.61ドル高の76.57ドルとなった。米政府は10日、ウクライナ侵攻を続けるロシアへの追加経済制裁を発表。同国の石油大手2社と各子会社を新たに制裁対象とし、米国内の資産を凍結するほか、米国内外の金融機関との取引を制限する。英国も追随し、同様の措置を取った。
- 第3週、1/17のWTI原油は、先週比1.31ドル高の77.88ドルとなった。イスラエル政府は17日、パレスチナ自治区ガザでの停戦合意を巡り話し合う治安閣議を開いた。全体閣議で合意を承認する見通しで、イスラエル首相府は声明で、承認されれば「計画に従って19日に人質解放が実施される」との見解を表明した。これを受け、中東情勢を背景とした供給不安が幾分後退し、原油は売りが優勢となった。
- 第4週、1/24のWTI原油は、先週比3.22ドル安の74.66ドルとなった。トランプ米大統領はこの日、石油輸出国機構(OPEC)に対して改めて石油価格を引き下げよう要求。同氏は前日のダボス会議で、ウクライナ侵攻を続けるロシアの戦費調達を阻むには、油価下落が有効と訴えていた。
- 第5週、1/31のWTI原油は、先週比2.13ドル安の72.53ドルとなった。関税発動がインフレ再燃につながる懸念から、外国為替市場で対ユーロでドル買いが加速。ドル建てで取引される商品の割高感につながり、原油相場は圧迫された。

	1月平均	WTI原油	80.92ドル	前月比	8.08ドル	為替 1ドル	157.54円	前月差	2.77円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
1/1~1/8	15.0	+1.0	+1.0
1/9~1/15	17.4	+4.0	+4.0
1/16~1/22	16.5	+2.5	+2.5
1/23~1/29	21.5	+4.5	+4.5
1/30~1/31	20.5	-2.5	-2.5

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格
	2024年10-12月C重油決定価格	91,120
	2025年1-3月C重油仮価格	93,120
	2025年1-3月C重油決定価格	96,240

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合C重油	A重油
	2024年10-12月C重油決定価格	98,520
	2025年1-3月仮価格	101,640
	2025年1-3月決定価格	

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	24/12	9桁速報	73,361	76.50	152.46	-1,793
	25/1	最終予測	74,451	75.46	156.85	1,090
	25/2	展望	77,268	79.77	154.00	2,817
	25/3	展望	77,461	81.02	152.00	193

【次世代エネルギー】〈北九州「水素・アンモニア拠点」でみた期待と不安〉

北九州市の高塔山公園から見える日本製鉄の製鉄所に隣接する日本コークス工業の北九州事業所では、新しいエネルギー源を開発する大規模なプロジェクトが進行中である。地元の「北九州市グリーン成長戦略」に基づき、同事業所ではコークス製造に代わる新たな収益源として、水素やアンモニアの供給拠点整備が取り組まれている。市内産業の競争優位性を高め、次世代エネルギーを安定供給することを目指している。響灘地区では洋上風力発電所の建設や水素とアンモニア供給拠点整備が進行中であり、2023年には福岡県水素拠点化推進協議会が設立され、水素拠点の形成を目的としている。このプロジェクトには九州電力をはじめとする多くの企業が参加し、需要家の多くは水素混焼やアンモニア代替燃料の利用を検討している。2030年の運用開始を目指すこのプロジェクトには、国の補助金申請が視野に入っており、25年間にわたる需要家との協力が求められる。しかし、水素とアンモニアの価格は依然として高く、政府は価格差を補助する制度を設け、試験的な段階にあるが、全国で8件程度の認定を目標としている。一方で、各地域での供給拠点整備プロジェクトも進行中だが、需給の見通しは不透明で、現行の補助制度では完全に需要を満たすのは難しい。2050年までの需要を支えるための制度設計が急務である。

出典: 東洋経済オンライン <https://toyokeizai.net/articles/-/848652>

【2月価格変動要因】

- 需給:
 - ・米国ネタで原油相場は神経質
バイデン政権はロシアの石油会社とロシア産の石油を運搬するタンカーを制裁すると発表し、原油価格は上昇。又、米国に到来した寒波により暖房需要が増加し、Brentは80ドルに一時乗せる動きとなった。
 - ・米国景況感強弱入り混じる
雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比増勢加速、失業率も3か月ぶりに低下となり、総じて強い結果に。ベージュブック(地区連銀景況報告)でも足元の景気の緩やかな拡大が示唆。他方で、同調査を第一次トランプ政権と比較すると楽観論はやや減少している。インフレ懸念の他、農業やレジャー、看護などの特定業種で人手不足を警戒する声が散見される。
 - ・中国経済は、期待先行
内需が芽えない状況が継続。10-12月期実質GDPは前期から伸び率拡大したものの、2024年通年では+5.0%と前年を0.2%下回る水準となった。小売売上高、固定資産投資が重石。直近発表された消費者物価も伸び鈍化。
- リスク資産・金融市場:
 - ・トランプトレードに伴う金利上昇・ドル高が相場の重し
トランプ関税の有無が相場の不透明感を高めており、予断を許さない。3月には中国で全人代も控えており、米国による関税圧力に対する中国が、いかに内需を喚起するか、中国当局の動きが今後気がかりだ。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	82	79
Average	76	73
Low	70	67

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	84	81
Average	77	74
Low	69	66

日付	国	経済指標カレンダー	日付	国	経済指標カレンダー
3	ユーロ	1月消費者物価指数	17	日本	10-12月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
3	米国	1月ISM製造業景況指数	19	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
5	米国	1月ADP雇用統計	21	日本	1月全国消費者物価指数(CPI)
5	米国	1月ISM非製造業景況指数	24	ユーロ	1月消費者物価指数(HICP、改定値)
7	米国	1月非農業部門雇用者数変化	26	米国	1月新築住宅販売件数
7	米国	1月失業率	28	米国	1月個人消費支出(PCEデフレーター)
7	米国	1月平均時給			
12	米国	1月消費者物価指数(CPI)			
14	米国	1月小売売上高			